

3 平成 29 年度学校目標

平成 29 年 4 月 30 日設定

視点	4 年間の目標 (平成 29 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を高め、進路実現に応える教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②在県外国人の校内支援体制を構築する。</p>	<p>①生徒が主体的、協働的、探求的な学習に取り組めるよう授業改善に取り組む。</p> <p>①H29 年度入学生の 3 年次の学校設定科目の内容を確定する。</p> <p>②在県外国人に対して学習や学校生活の支援体制を整備する。</p>	<p>① アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業に関わる手法研修を行うと共に、研究授業・生徒による授業評価を通じ、生徒主体の授業改善に取り組む。</p> <p>①平成 30 年度で総合学科と単位制普通科が混在できるように、教育課程の編成及び年次進行型に対する教務規定を制定する。</p> <p>②在県外国人支援チームをグループ横断的に編成し、在県外国人の情報共有を図り、有効な教育課程や課題の解決を検討・協議し、機動的に取り組み支援体制の構築を図る。</p>	<p>①研修会及び研究授業実施の有無、生徒による授業評価の項目 4 における「4 とても当てはまる」+項目 3「当てはまる」の回答率が 80%以上となったか。また、「魅力と特色づくりアンケート」で「大変満足している」+「満足している」の評価項目の回答率が 50%以上となったか。</p> <p>①単位制普通科の教育課程編成及び教務規定を定めることができたか。</p> <p>②在県外国人検討チームの取組が在県外国人に応じた教育整備や支援の必要な生徒の指導に生かし、課題の解決につながったか。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立と身だしなみの指導を徹底するとともに、生徒一人ひとりの課題に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>①遅刻防止指導や身だしなみの指導等を行い生徒の規範意識の醸成を図るとともに、集団活動を通して社会性の涵養を図る。</p> <p>①課題を抱える生徒の全体的な把握と個別理解を進める。</p>	<p>①基本的なルールを職員全員で再確認し、学校全体で日常的、地道な生徒指導を継続し、生徒自身の気づきを引き出す指導を行う。</p> <p>①日常的な生徒対応から課題を抱える生徒を早期に発見し、ケース会議等を通して適切な対応をとる。</p>	<p>①遅刻防止指導を年 10 回、頭髪指導年 5 回実施し、生徒の規範意識の向上につながったか。</p> <p>①ケース会議の取組や生徒情報交換会の実施により、支援の必要な生徒の課題解決につながったか。</p>
3 進路指導・支援	<p>①外部の教育力を活用し、「進学を重視した学校」として生徒の進路指導の充実を図る。</p>	<p>①適切な進路情報の提供を行うとともに、体系的な指導体制を構築する。</p>	<p>①特色科目(総合学科)、総合的な学習の時間(1 年)を利用したキャリア学習のほか、上級学校見学会(2 年次)や進路講演会(各年次)、受験ガイダンス(3 年次)等で外部教育力を活用した進路指導を行う。</p>	<p>① 4 年制大学進学率が昨年度比 10%増となったか。</p> <p>①センター試験受験者数が 100 人を超えたか。</p> <p>①模擬試験、資格取得試験の受験者数が昨年度比 20%以上となったか。</p>
4 地域等との協働	<p>①学校運営協議会制度の導入に向け、地域との連携・協働を進め、地域に信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>①地域貢献活動やボランティア活動等を通して交流活動を推進するとともに、学校の取組について外部への情報発信を活性化する。</p>	<p>①保育園ボランティアへの参加増を目指し、落ち葉拾いなど地域貢献活動の充実をはかる。</p> <p>①清水ヶ丘ケアプラザ・保育園との合同の避難訓練を実施する。</p> <p>①HPの充実を図り、学校の取組等の情報発信を活性化する。</p>	<p>①ボランティア活動への参加者が昨年度比 10%以上増となったか。</p> <p>①生徒の防災意識が高まったか。</p> <p>①HPの更新回数、閲覧回数が昨年度比 20%増となったか。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①私費会計の適切な管理、運営を行う。</p> <p>②定期テストや入学者選抜の際に事故防止に取り組む。</p>	<p>①帳簿の相互チェックと迅速な処理を心掛け、事故防止に努める。</p> <p>②不祥事防止に努め、教職員全員の意識高揚を図る。</p>	<p>①私費会計の適正な執行について、事故防止会議等で、研修の機会を持つ。</p> <p>②マニュアル遵守、シミュレーションの実施などを通じ、入学者選抜業務での事故を完全に防止する。</p> <p>②定期テストの共通化を行い、作問内容の適正化とミ</p>	<p>①研修会の実施により会計の適正な執行についての理解が深まったか。</p> <p>②事故を完全に防ぐことができたか。</p> <p>②定期テストの共通化率が昨年度比 20%以上となっ</p>

				スの事前防止に取り組む。	たか。
--	--	--	--	--------------	-----